

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-206437

(43) 公開日 平成11年(1999) 8月3日

(51) Int.Cl.⁵
A 4 5 D 7/04
24/22

識別記号

F I
A 4 5 D 7/04
24/22

B

審査請求 未請求 請求項の数11 書面 (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平10-48506

(22) 出願日 平成10年(1998) 1月22日

(71) 出願人 596062967

大蔵 博之

名古屋市中村区五反城町 3 丁目34番地の 2

(72) 発明者 大蔵 博之

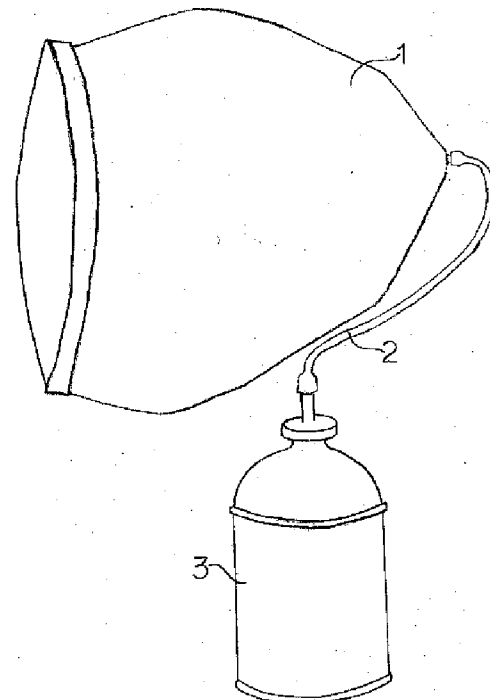
愛知県名古屋市中村区五反城町 3 丁目34番
地の 2

(54) 【発明の名称】 毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理方法とそれに用いる器具

(57) 【要約】

【目的】 毛髪のパーマ、染毛、ブリーチ、トリートメント、皮膚の血行促進が安全で簡単に効率よく行なうことができる毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理方法とそれに用いる器具を提供すること。

【構成】 毛髪のパーマ、酸性染毛、酸化染毛、ブリーチ、トリートメント、頭皮など皮膚の炭酸ガス処理を行なう方法と、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをヘアーキャップに接続した毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具と、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをブラシに接続し、そのブラシの髪梳部から炭酸ガスが出る毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具と、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースを櫛に接続し、その櫛の髪梳部から炭酸ガスが出る毛髪及び頭皮の炭酸ガス処理に用いる器具。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 毛髪に還元作用を有するパーマ用第1剤を作用させ、次に酸化作用を有するパーマ用第2剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによってpHを低下させパーマ用第2剤の酸化作用を促進させることを特徴とする毛髪の炭酸ガス処理方法。

【請求項2】 毛髪に酸性染毛料を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによってpHを低下させ酸性染毛料の色素の毛髪への定着性を向上させることを特徴とする毛髪の炭酸ガス処理方法。

【請求項3】 毛髪に酸化染毛剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによって毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和してpHを低下させ毛髪を収斂することを特徴とする毛髪の炭酸ガス処理方法。

【請求項4】 毛髪にブリーチ剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによって毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和してpHを低下させ毛髪を収斂することを特徴とする毛髪の炭酸ガス処理方法。

【請求項5】 毛髪にアルカリ性のトリートメント剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによって毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和してpHを低下させトリートメント成分の毛髪への定着性を向上させ毛髪を収斂することを特徴とする毛髪の炭酸ガス処理方法。

【請求項6】 皮膚に炭酸ガスを作用させて皮膚の細胞内の体液のpHを低下させることによって刺激を与え血行を促進させることを特徴とする皮膚の炭酸ガス処理方法。

【請求項7】 皮膚が頭皮である請求項6に記載の皮膚の炭酸ガス処理方法。

【請求項8】 炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをヘアーキャップに接続したことを特徴とする毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具。

【請求項9】 炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをブラシに接続し、そのブラシの髪梳部より炭酸ガスが出ることを特徴とする毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具。

【請求項10】 炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースを櫛に接続し、その櫛の髪梳部より炭酸ガスが出ることを特徴とする毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具。

【請求項11】 炭酸ガス発生源が炭酸ガスボンベである請求項8又は9又は10に記載の毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、毛髪のパーマ、染毛、ブリーチ、トリートメント、頭皮などの皮膚の血行促進などの処理を安全で簡単に効率よく行なうことができる毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理方法とそれに用いる器具に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来から毛髪のパーマ、染毛、ブリーチ、トリートメントでは、定着を良くしたり、毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和して収斂するために酸性リンスなどが用いられており、また皮膚の血行促進については例えば頭皮の育毛などのための血行促進にはマッサージしたりブラシでたたいたりする方法が用いられていた。

【0003】ところが毛髪のパーマ、染毛、ブリーチ、トリートメントでは、定着を良くしたり、毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和して収斂するための酸性リンスは比較的酸性が強く、これを用いるとpHが急激に低下して、かえって毛髪にダメージを与えたり、酸性成分が毛髪に残って風合いなどの仕上がり感が悪くなるなどの問題があり、また頭皮の血行促進のためなどのマッサージでは十分に血行促進するまで続けるのは面倒であり、ブラシでたたくものでは頭皮に傷をつけたりするという問題点があった。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記のような従来の問題点を解決して、毛髪のパーマ、染毛、ブリーチ、トリートメント、頭皮などの皮膚の血行促進などの処理を安全で簡単に効率よく行なうことができる毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理方法とそれに用いる器具を提供することを目的として完成されたものである。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するためになされた本発明は、毛髪に還元作用を有するパーマ用第1剤を作用させ、次に酸化作用を有するパーマ用第2剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによってpHを低下させパーマ用第2剤の酸化作用を促進させる毛髪の炭酸ガス処理方法と、毛髪に酸性染毛料を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによってpHを低下させ酸性染毛料の色素の毛髪への定着性を向上させる毛髪の炭酸ガス処理方法と、毛髪に酸化染毛剤やブリーチ剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによって毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和してpHを低下させ毛髪を収斂させる毛髪の炭酸ガス処理方法と、毛髪にアルカリ性のトリートメント剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させることによって毛髪内部などに残ったアルカリ剤を中和してpHを低下させトリートメント成分の毛髪への定着性を向上させ毛髪を収斂させる毛髪の炭酸ガス処理方法と、頭皮など皮膚に炭酸ガスを作用させて皮膚の細胞内の体液のpHを低下させることによって刺激を与え血行を促進させる皮膚の炭酸ガス処理方法、そして炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをヘアーキャップに接続した毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具と、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースをブラシに接続し、そのブラシの髪梳部より炭酸ガスが出る毛髪及び皮膚の炭酸ガス処

理に用いる器具と、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くためのホースを櫛に接続し、その櫛の髪梳部より炭酸ガスが出る毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具で、これらの炭酸ガス発生源が炭酸ガスボンベである毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具よりなるものである。

【0006】

【発明の実施の態様】本発明は炭酸ガスの有する穏やかなpH低下作用によって毛髪や皮膚の炭酸ガス処理を行うものである。これをパーマに適用する場合、パーマ用第1剤を作用させた後、パーマ用第2剤を作用させ、さらに炭酸ガスを作用させて処理すると毛髪に残ったダメージヘアの原因などになるアルカリ剤を炭酸ガスが中和し、さらにpH低下によってパーマ用第2剤中の酸化剤の酸化作用を促進させてパーマ用第1剤で開裂した毛髪のシスチン結合の酸化再結合を促進するためパーマの仕上がりりと定着性が向上する。また活性化した酸化作用によってパーマ液特有の臭気も分解消臭される。酸性染毛剤である酸性ヘアカラーや酸性ヘアマニキュアの場合では、毛髪に酸性染毛料を作用させ、例えばその後シャンプーしてから炭酸ガスを作用させると、pH低下作用によって酸性染毛料の色素の毛髪への定着性が向上する。酸化染毛剤、ブリーチ剤の場合では、毛髪にこれらを作用させ、例えばその後シャンプーしてから炭酸ガスを作用させると、炭酸ガスによって毛髪に残ったダメージヘアの原因となるアルカリ剤を中和してpHを低下させるため、毛髪は収斂され仕上がり感の向上とヘアードメージの防止が可能である。またアルカリ性のトリートメント剤の場合では、毛髪にこれを作用させ、例えばシャンプーしてから炭酸ガスを作用させると、炭酸ガスによって毛髪に残ったダメージヘアの原因となるアルカリ剤を中和してpHを低下させて毛髪を収斂し、トリートメント成分の毛髪への定着性を向上させるため仕上がり感の向上とヘアードメージの防止が可能である。次に皮膚については例えば頭皮に炭酸ガスを作用させると、頭皮の細胞内の体液のpHを低下させることによって刺激を与え血行を促進する作用を示す。これによって育毛、養毛などの効果も与えられる。炭酸ガスは毛髪や頭皮に対して無害であり引火性もなく扱いやすい。またオゾンや水のミストなどと併用しても全く問題ない。また本発明の毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理に用いる器具において、炭酸ガス発生源より炭酸ガスを導くホースに接続されるものとしては、ヘアーキャップ、髪梳部より炭酸ガスが出るブラシ、髪梳部より炭酸ガスが出る櫛などがあり、炭酸ガス発生源としては炭酸ガスボンベを用いても便利である。

【0007】

【実施例】次に本発明を図示の器具の実施例を参照しつつ詳細に説明する。図1は本発明の第1の実施例を示すもので、1はヘアーキャップ、2は炭酸ガスを導くため

のホース、3は炭酸ガスボンベである。このヘアーキャップを頭にかぶって炭酸ガスを送ることによって毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理を行うことができる。

【0008】また図2は本発明の第2の実施例を示すもので、4はブラシ本体、2は炭酸ガスを導くためのホース、5は炭酸ガスが出るブラシ歯で髪梳部であり、3は炭酸ガスボンベである。このブラシに炭酸ガスを送りながらブラッシングすることによって毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理を行うことができる。

【0009】図3は本発明の第3の実施例を示すもので、6は櫛本体、2は炭酸ガスを導くためのホース、7は炭酸ガスが出る櫛歯で髪梳部であり、3は炭酸ガスボンベである。この櫛に炭酸ガスを送りながらコーミングすることによって毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理を行うことができる。

【0010】このような器具を用いて毛髪や頭皮の炭酸ガス処理を行えば、パーマでは仕上がり感、定着性の向上、臭気の分解消臭、酸性染毛では色素の毛髪への定着性の向上、酸化染毛やブリーチでは仕上がり感の向上とヘアードメージの防止、アルカリ性のトリートメントではトリートメント成分の毛髪への定着性の向上による仕上がり感の向上とヘアードメージの防止、そして頭皮などの皮膚については血行促進などの効果が与えられる。

【0011】

【発明の効果】以上の説明からも明らかなように、本発明方法は毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理を極めて安全で簡単に効率よく行なうことができるとともに、確実な効果を発揮することができる。また本発明器具は上記の操作が極めて容易なうえに構造が簡単なために安価で提供できるなどの利点がある。よって本発明は従来の問題点を一掃した毛髪及び皮膚の炭酸ガス処理方法とそれに用いる器具として、産業の発展に寄与するところは極めて大である。

【図面の簡単な説明】

【図1】炭酸ガスボンベと、ヘアーキャップ、そして炭酸ガスを導くためのホースからなる本発明器具の第1の実施例を示す斜視図である。

【図2】炭酸ガスボンベと、炭酸ガスが出るブラシ歯をもったブラシ、そして炭酸ガスを導くためのホースからなる本発明器具の第2の実施例を示す斜視図である。

【図3】炭酸ガスボンベと、炭酸ガスが出る櫛歯をもった櫛、そして炭酸ガスを導くためのホースからなる本発明器具の第3の実施例を示す斜視図である。

【符号の説明】

- 1 ヘアーキャップ
- 2 炭酸ガスを導くためのホース
- 3 炭酸ガスボンベ
- 4 ブラシ本体
- 5 炭酸ガスが出るブラシ歯

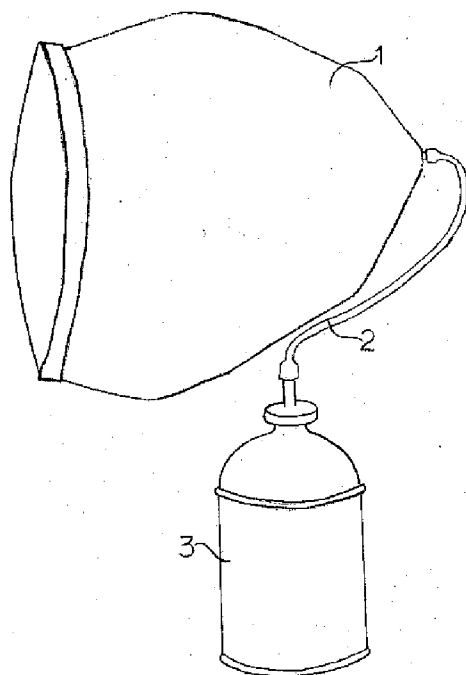
6 櫛本体

5

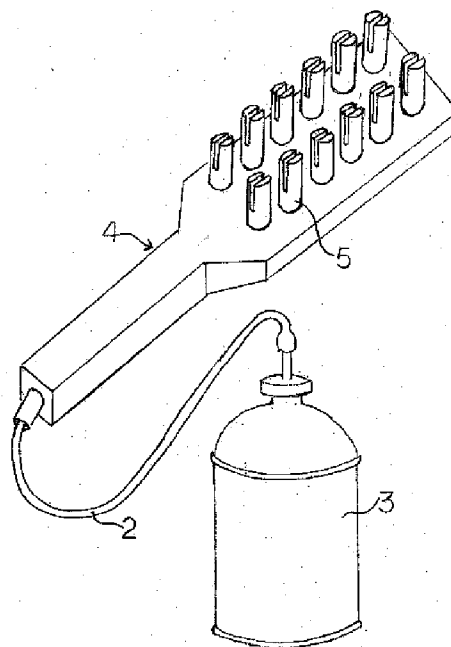
7 炭酸ガスが出る櫛歯

6

【図1】



【図2】



【図3】

